



## みんなでつくる 尼崎の未来

特集  
P2-5

さまざまな「連携」のかたち



PICK UP!

P6

物価高騰対策を実施  
個人住民税(市民税・県民税)の定額減税など

P6

令和7(2025)年度向け採用  
市職員の採用など

電子版(抜粋版)も配信中!



15言語での表示・音声読み上げ  
Multilingual(15 languages)



# みんなで作る尼崎の未来

さまざまな「連携」のかたち

本市では、包括連携協定や市民提案制度といった仕組みを通して、事業者や団体、学校などさまざまな立場の皆さんと一緒にまちづくりに取り組んでいます。お互いを尊重し、それぞれの強みや得意なことを掛け合わせながら尼崎の未来をつくる活動の一部を紹介します

☎1035363 図協働推進課 ☎6489-6153 図6489-6173

### 尼崎小田高校

#### 高校生がフレイル予防の取り組みを実施

地域の高齢者の皆さんとの交流で学んだことを冊子や動画にして発信していきます

尼崎小田高校の皆さん



### コープこうべ

#### 宅配トラックで消防団員を募集

約50台のトラックにPR用ステッカーを付けて宅配。まちを守る消防団と一緒に盛り上げます！

協同購入センター尼崎 金田 宏樹さん



### 郵便局

#### 郵便局員がまちの不具合を報告

業務中に発見した道路のひび割れなどを市に報告。私たちもまちの安全・安心を守ります！

尼崎塚口六郵便局 西田 明生さん



### あまがさきキューズモール

#### 「いきいき百歳体操」体験会で健康長寿に貢献

地域の皆さんにより一層愛され喜んでいただけるショッピングモールを目指しています。昨年、市の高齢者向け運動プログラム「いきいき百歳体操」の体験会を館内で実施したところ、「買い物ついでに体操に参加できてよかった」という声を頂きました。私たちにとっても、シニア世代の皆さまにアプローチできる良い機会となりました

総支配人 坪田 宗輔さん



フリースペースでの体験会

### 関西国際大学

#### 災害時支援の啓発冊子を作成

地域へ飛び出し、災害時に支援を必要とする皆さんに取材。生の声を活動に生かしていきたいです！

教育福祉学科 山本ゼミの皆さん



### 園田学園女子大学・短期大学部

#### 不登校児童・生徒支援の充実に向けて

「ハートフルフレンド」の活動を通じて、支援の充実に目指しています。市と共催する講習会では、実際に不登校の子どもと交流した学生が体験談を共有。子どもたちに年齢が近い学生ならではの視点で不登校支援について一緒に考えています

社会連携部 稲垣 憲治さん



昨年度の講習会の様子



自転車ヘルメット着用啓発ポスター



### 包括連携協定 CASE 01

#### アメフトのビジュアルを生かした広告で市の施策をPR

SEKISUIチャレンジャーズ ゼネラルマネージャー 川口 陽生さん

地域貢献でファンを増やしながら  
ニ崎を盛り上げたい

チャレンジャーズはアメリカンフットボールのトップリーグ「XFL Super」に所属するチームです。尼崎市に本拠地を置くクラブチームとして、地元の社会課題解決の力になり、皆さんに愛されるチームになりたいという思いをきっかけに包括連携協定を結びました。

協定に基づき、さまざまな活動を行ってきました。自転車のヘルメット着用キャンペーンでは、アメフトがヘルメットを着用するスポーツ

であることからオファーをいただき、動画撮影に協力しました。ほかにも消防指令管制システムで3者同時通訳が可能になった際に外国人選手がプロモーション動画に出演したり、新型コロナウイルス感染症の流行時には市に1万枚のマスクを寄贈したりしました。

包括連携協定のおかげで、私たちだけでは実現が難しいかもしれないことに挑戦するときでもスムーズに進めることができると実感しています。多分野にわたる連携なので、スポーツに関するだけでなく地域コミュニティの活性化や教育の分野などにも貢献でき、私たちの活動の幅が広がるのがあります。

私たちのチームは、地元の皆さんに愛されることを大切にしています。包括連携協定を通じて地元にも貢献することで新たなファンを獲得しながら、尼崎を盛り上げていきたいと思います。今後も市と協力して、お互いにメリッ



## 包括連携協定 Q&A

### Q 包括連携協定って？

A 市は教育機関やさまざまな民間企業と協力関係を結んでいます。それらのうち、防災・福祉・子育てなど複数の項目にわたって連携し、互いにメリットがあり、かつ市全体に関わるものを包括連携協定としています

### Q 締結後はどうなるの？

A 本市と連携先が互いの課題認識や強みを具体的に共有するとともに、その課題解決に向けた新たな取り組みなどについて定期的に提案や議論を重ねていきます

### Q 今後も連携先は増えるの？

A 包括連携協定は、双方にメリットのある取り組みが全市横断的になされることを目指しており、提携先を増やすことが目的ではありません。ただ、効果が見込まれるものであれば積極的に連携を図っていく予定です

包括連携協定で広がる多彩なまちづくり



# 市民提案制度であなたのアイデアを一緒に実現しませんか？

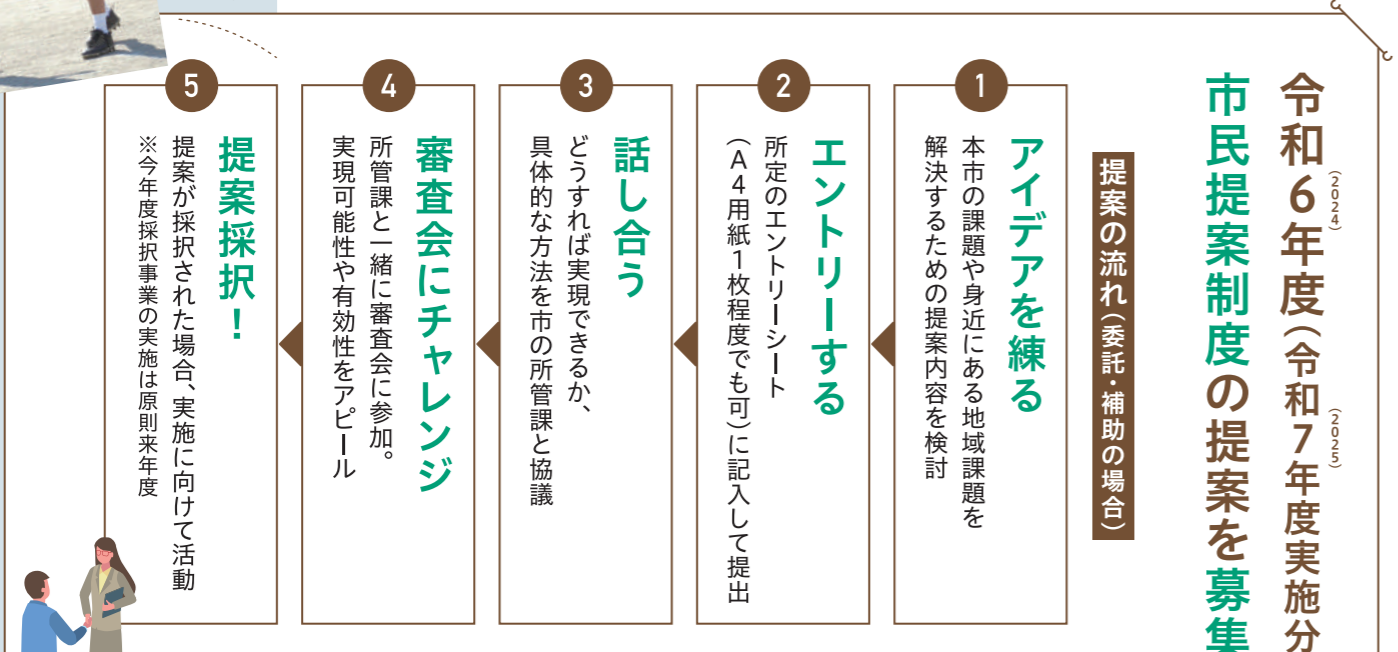
提案募集期間  
5/1  
～6/28  
(必着)



チャレンジャーズも同制度で小学校でのフラッグフット教室を実施しました

市民提案制度は、市民活動団体や事業者の皆さんからいただいた提案を実施することで、地域課題の解決やまちの魅力の向上を目指す制度です。尼崎をもっと魅力的なまちにしましょう！

を基に、市の事業の委託化や協働事業(補助金の交付など)として一緒に実施することで、地域課題の解決やまちの魅力の向上を目指す制度です。尼崎をもっと魅力的なまちにしましょう！



## こんな分野を特に待っています！

同制度は自由なテーマで提案可能です。同時に、本市が考える課題などを「市の提案テーマ」として公表しています。市の提案テーマや既存事業への提案も可能です

- 今年度の市の提案テーマ(抜粋)**
- 外国人向けの防災に関する啓発事業(ダイバーシティ推進課・災害対策課)
  - デジタル媒体を使った地域貢献ができる取り組み(協働推進課)
  - 新たな人材確保に向けた職場の魅力伝える広報の取り組み(人事課)
  - 小学生の保護者を対象としたよりよい親子関係づくりを目指す取り組み(こども相談支援課)
  - みんなで支える公共交通の利用促進のアイデア(都市戦略推進担当)



詳しくはこちら

## 他にも市民の皆さんの声をまちづくりに取り入れています

- ▶ 市民意見公募手続(パブリックコメント)**  
ID1011552  
政策や条例などを決める前に市の素案を公表し、寄せられた意見を考慮した上で最終的な意思決定を行います
- ▶ まちづくり提案箱**  
ID1018888  
市民の皆さんから建設的な意見を募集する制度。頂いた意見は市長が目を通し、関係部署が回答または対応します

**▶ 車座集会「みんなの尼活皆議」**  
ID1002103

市民の皆さんと市長が、尼崎の未来に向けたまちづくりについて語り合い、情報を共有するために実施しています



市民提案制度 CASE 02

## 地域に根差した多胎育児支援を提案

NPO法人つなげる  
代表理事 中原 美智子さん・榎本 由維さん



私は男の子3人を育てていて、次男と三男が双子です。長男だけの時はいろいろな所に遊びに連れて行けたのに、双子が生まれた途端に家にひきこもりがちになって。子どもを家に閉じ込めてしまっていると感じ、双子を連れてお出かけしやすい自転車を開発しました。

自転車の試乗会をやると、双子や三つ子のママたちが列をなして、涙ながらに悩みを語ってくれました。多胎育児の実態は当事者以外には理解しにくく、気軽に話せる空間や仲間づくりの必要性を痛感し、NPO法人を立ち上げました。ママパパたちが参加しやすいオープンチャットなど地域を問わずさまざまな活動をする中、私が住む尼崎でも何かできないかと思ったのが、市民提案制度に応募したきっかけです。もともとの提案は市内全域で「ふたご会」を開催することでしたが、市と話し合う中で一気に広げるのは難しいのではという意見が出たことから、昨年度は園田地区に絞って開催。おかげさ

まは理解しにくく、気軽に話せる空間や仲間づくりの必要性を痛感し、NPO法人を立ち上げました。ママパパたちが参加しやすいオープンチャットなど地域を問わずさまざまな活動をする中、私が住む尼崎でも何かできないかと思ったのが、市民提案制度に応募したきっかけです。もともとの提案は市内全域で「ふたご会」を開催することでしたが、市と話し合う中で一気に広げるのは難しいのではという意見が出たことから、昨年度は園田地区に絞って開催。おかげさ

で新たに二つの子育て団体となり、場所をお借りして開催することができました。

あえて双子以外の子どもたちも集まる場所で開催することで、当事者以外の人たちが場を提供してくれた施設の方に多胎育児ならではの悩みや見守り方を知ってもらったことが大切だと私たちは考えています。

今年度は他の地区にも「ふたご会」を広げていくことが目標です。



NPO法人つなげるホームページはこちら

## Cross×Talk 市民提案制度クロストーク

事業の意義を伝えるにしても、自分たちだけではなかなか進まなかったと思います。この制度を利用することで、私たちの声を届けてもらいやすくなりました。同じテーブルに着いてカードを積み上げていくようなイメージで、話し合えたことがすごくありがたかったです。

本市では多胎家庭向けの支援事業を実施していますが、孤立を防ぎ継続して寄り添うにはどうすべきかという課題がありました。今回の提案を通して多胎児を育てる皆さんの思いや困りごとを職員がより深く知ることができたので、今後の支援の充実に生かしていきたいと考えています。



こども福祉課 河野訓明  
健康増進課 石崎友恵